

高槻 まちかど遺産 H25-13

慶瑞寺東の天神山

慶瑞寺の東隣には、かつて天神社という神社があり、一帯は天神山と呼ばれていました。

江戸後期の『摂津名所図会』には、木立の中に鎮座する社と鳥居が描かれ、同社がこの地の生土神で、延宝年中(1673～1680)に再興されたことなどが記されています。明治41年(1908)、西富田の八幡神社とともに三輪神社境内に合祀されました。

天神山の紅葉は、富田の景勝の一つとして、漢詩人・坂田十松の「富田十勝詩」に詠まれています。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会




慶瑞寺東の天神山

慶瑞寺の東隣には、かつて天神山という神社があり、一帯は天神山と呼ばれていました。

江戸後期の「摂津名所図会(せつつめいしょずえ)」には、木立の中に鎮座する社と鳥居が描かれ、同社がこの地の生土神(うぶなすかみ)で、延宝年中(1673～1680)に再興されたことなど記されています。明治41年(1908)、西富田の八幡神社とともに三輪神社境内に合祀されました。

天神山の紅葉は、富田の景勝の一つとして、漢詩人・坂田十松の「富田十勝詩」に詠まれています。 平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

※01 慶瑞寺は、黄檗宗仏教寺院。祥雲山本尊は、観世音菩薩持統天皇 8 年(694 年)に僧道昭が創建(今より 1300 年前)現昭和台北昭和台を見て、良い田園であり、この地を屯田とし、天皇に米を持参する。

※02 古来より天神山は、春は野梅にウグイスを聞き、秋は樹間の紅葉を愛でる村人の散策地でした。

ここには天神社(天地の神)が祀られ、一帯は御野と呼ばれ、広い畑が広がっていました。本能寺の変の後羽柴秀吉がここに陣を敷いて織田信孝(信長の 3 男)を迎え山崎の戦に向ったと言われています。

電鉄の開発により住宅地になりましたが地域住民の努力により南小山池が残り、その風情を今に伝えています。